



「ひらほく新聞」で検索!

★感謝で継続11年目に突入★

<http://www.hirahoku.com/>

☆ぜひ、バックナンバーをどうぞ!

発行所 読売センター平塚北部(ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807

# 常識人間を捨てる 自分の心に従って生きる と腹をくくろう

YouTube チャンネル  
マコなり社長



この言葉は、株div代表取締役、真子就有(まこゆきなり)さんのメッセージ。大学在学中22歳で起業。多くの失敗を経て、現在は社員500名規模の会社に。未経験からエンジニアになる日本最大級のプログラミングスクールを運営。現在30歳、SNS上で「マコなり社長」として、主に若者向けに発信している「明日からの仕事・人生に役立つ話」から紹介します。

## 自分の中に毒を持って

岡本太郎さんのこの名前の書籍を読んで、人生が圧倒的に好転したという真子さん。そこにあつた衝撃的な一文、「人間にとって成功とはいったい何だろう。自分の夢に向かって、自分がどれだけ挑んだか、努力したかどうかではなだろうか。夢がたとえ成就しなかったとしても、精一杯挑戦した、それで爽やかだ。」内定のある成長企業への就職か、世界を変えるようなサードピスをつくりたいという道、その二つの岐路に立たされてきた21歳、大学4年生の時に、出会った書籍。そこにあつたのは『常識人間を捨てる!』という強烈なメッセージ。「自分はこれまでずっと誰かの人生を生きてきたことに気がついた。ITベンチャーへの入社…。全部誰かの決めた答えをなぞっていただけだった。それが楽だから、みんな認めてくれるから。」

もう誰かのために生きるのはやめよう。自分のやりたいことだけを貫こう。孤独に感じたり、うまくいかない絶望の日があつても、「自分は絶対に逃げない」。どんな絶望的な状況で、世界の誰も味方がいなくなつても、「俺はやりたいたいことをやって死ぬ」。そう決めた。体の内側からメラメラと力が湧いてきて、ある意味、自分の人生はこの瞬間から「成功」した。

これまでは、たくさんの人に認められるサービスを作ることが人生の成功だ思っていた。しかし、その価値観がガラッと変わった。今この瞬間の「心のあり方」が自分の人生の成功の尺度になった。

自分の「やりたい」という気持ちに嘘がなければ、「成功」であり、それを貫くだけでいい。自分の人生の成功を初めて自分で決められるようになった。今後を何も決めていない状況で翌日、暗黒の中に一つで飛び込むような気持ちで、お世話になった会社への「内定辞退」のメールを書き始めた。ずっと心臓がドキドキ、怖くて書き終えるのに一日かかった。

岡本太郎さんの言葉を思い出した。「あなたは常識人間を捨てられるか?」。俺はもう、誰かの決めた人生の正解をなぞるのはやめる。今思えば、この瞬間、私の人生は一変した。その後、周りからいろんなことを言われたが、何も気にならなかつた。そして、どんな絶望的な状況がきても、乗り越えて今がある。

この先、どんな状況が来ても約束できること。それは『絶対に自分の信念を曲げない』ということ。「常識人間を捨てる」「やりたいことをやる」という価値観を体現し続けます。

成功者になる「超具体的」なアクションBEST5より

## 成功者になる「超具体的」なアクションBEST5より

### ◎第1位「今すぐ両親にLINEで心からの感謝を伝える」。

母子家庭だったり、複雑な家庭事情があれば、祖母でも、育ててくれた人でもいい。今すぐ感謝を伝えましょう。

なぜ成功者になるためのアクションが両親への感謝なのか。それは、自分が今生きていること、それだけで素晴らしいことなんだと気づくことができるから。あなたは親に感謝を伝えていますか? そもそも話せていますか? 未だに気が合わないところ、許せないこと、あるかもしれない。でも、絶対に誰も否定できない事実が一つある。あなたは今、生きているという事実。

母親がお腹を痛めて生んでくれたから、誰かが毎日世話をしてくれたから、今この動画を見ているあなたがいる。この動画から学び、少しでも自分の人生をよりよくしたいと思つて「自分はまだ出来る」と胸に希望を抱いて生きていること、それだけで、めちゃくちゃ幸せなことだと思つて。私は小さい頃、両親はとも大きくて偉大な存在に

見えた。まるで両親は世の中の全てを知っているような、そんな気持ちだった。私は今29歳で結婚もしていないし、子供もない。経営者で少しだけ物知りにはなつたけれども、世の中まだまだ分からないことだらけ、日々悩むこともある。両親が、それぞれ24歳、25歳の時に私が生まれた。その歳を追い越して大事なことに気づいた。あんなに何でも知っているように見えた両親も、自分と同じように一人の人間として、悩んで、苦しんで、試行錯誤しながら、今日まで生きてきたんだなつてこと。思春期で物心ついたとき、衝突することもあり、ひどいことも言った。ある意味甘えていた。何でも受け入れてくれるスゴイ存在だから…。でも違つた。自分と同じ一人の人間だった。私の両親も、きっとあなたを育ててくれた人も、毎日、いろんなことに悩み、葛藤しながら育ててくれたのだ。本当にありがたいことです。自分生んで育ててくれた人がいるから、今ここにいます。たくさんの方が、自分が生きていることを認めてくれたから、今ここに生きている。育ててくれた人に「ありがとう」と伝えましょう。

生きていだけであつたことだとあなたが認めることから、あなたのサクセスストーリーは始まる。

何を今更?と言われると思つてためらう、照れくさい気持ちは凄く分かる。勇気を出してください。一度も言ったことのない両親の素晴らしいところを伝えましょう。あなたが本気で伝えた言葉をからかう人なんていない。私の会社には「感謝を伝える」という行動規範があり、入社すると、これまでに疎遠だった両親に感謝を伝えたり、会いに行く人がたくさんいる。みな口々に「やって良かった」と言つてながら話してくれる人もいて、私の知る限り、やって後悔した人はゼロ。別にずっと仲良くなくてもいい。お互いが幸せにいられる適切な距離感があるから。でも一度でも感謝を伝えたら、その事実は永遠に消えない。

形にこだわらず、今日今すぐLINEで送ってみてほしい。その瞬間から人生は大きく変わり始める。1通のLINEで一番幸せになるのはあなたです。そして、幸せで満たされた人、それはもう成功者です。



◎表面に続いて、マコなり社長の「成功者になる具体的なアクションBEST 5」より、第3位をご紹介します。

## 「お店の店員さんの目を見て笑顔でありがとうと必ずいう」

成功者になるために欠かせないこと、それは感謝。なぜ感謝を伝えるのか。成功者になるというのは、誰かの役に立つ存在になるということ。そして誰かの役に立つには、「自分が幸せだ」と満たされている必要があるから。

「自分が幸せだ」と気づくキッカケを与えてくれる最高のアクションが感謝を伝えること。  
有り難いって有ることが難しいと書く。感謝のことを相手を喜ばせる言葉とか礼儀だとかと思っている人がいるが、違う。

自分自身が「それが当たり前のものじゃないんだよ」と気づくこと。  
これが感謝です。  
私は毎週、感謝したいことを紙に書いて振り返っている。

私は今日日本最大級のエンジニアスクールを運営していて200名以上の社員がいる（19年8月）。生産性を重視して移動はほぼタ

クシーで、秘書にも仕事を手伝ってもらっている。そして、会社から徒歩圏内の家に暮らしている。

気がつく、そうだった環境に慣れてしまっている自分がある。この慣れが終わりのない欲を生み出す。もっと売り上げを大きくしたいとか、お金を増やしたいとか。

でも違う、僕がやりたかったことは、たくさんの人に喜んでもらうことだけ。会社の成長だって、お金だって、手段に過ぎなかったはずなのに、気づいたらそのために働こうとしてしまう。そして他者貢献の心を失って拡大だけに走った会社は必ず衰退する。

だから私は、毎週紙に書いて、これは当たり前前の状況じゃないんだと振り返るようにしている。  
5年前、何もなくなつた。仲間みんな辞めて、借金が残って事業は撤退、家は借りられなかったのでオフィスで寝泊まりをしていた。ご飯はいつも140円のうどんを食べていた。失敗して、多くのことを学んだ。

紙に感謝を書きながら、今の状況はなんてありがたいんだと感謝している。今どんな生活をしていたとしても、それがありがたいことなんだと感謝することが大切です。

これだけたくさんの方が世の中にいて、協力しあって安全で便利な生活が出来ること、そういった大切なことに気づくための最初のアクションが、毎日お店の人に「ありがとうございます」と感謝を伝えること。

コンビニの店員さん、タクシーの運転手さん、レストランの店員さん、髪を切ってくれる美容師さん、お金を払ったからといって、やってくれて当たり前前権利だと思っではないでしようか？

感謝を伝えるのがは妥当かどうかなんて、判断は出来ない。なぜなら感謝は、自分がありがたい状況なんだと気づく言葉だから。  
心からありがたいと伝えるたびに、自分の心が満たされていきます。そうすると自然と人の役に立ちとうとします。

今日からコンビニで商品を受け取る時に、「ありがとうございます」といいます。普通のお客さんよりも少しだけ大きな声で笑顔で言ってみませんか？

もしできたら「丁寧なありがとうがとうございます」と一言を添えてほしいです。それが習慣になったとき、あなたは成功者のマインドセットを手に入れています。（おわり）

紙に感謝を書きながら、今の状況はなんてありがたいんだと感謝している。今どんな生活をしていたとしても、それがありがたいことなんだと感謝することが大切です。

## 観るだけで人生が「好転」する映画TOP5

マコなり社長を知ったきっかけは、長年の愛読紙、日本講演新聞（旧・みやぎ中央新聞）の5/11号社説だった。

「かつて子どもだった両親を想う」というタイトルで、マコなり社長のオススメ映画 TOP5の内容をその後動画でも紹介していた。

◎第5位、インド映画『きつと、うまくい〜』  
◎第4位、アカデミー賞7部門にノミネートの名作、『ショーシャンクの空に』  
◎第3位、フランス映画『最強のふたり』  
◎第2位、もしもあの時、別の選択をしていたら、『天使がくれた時間』

（ここまで）は素晴らしい選択だったが、何と彼が選んだ1位は！日本のアニメ『クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ モーレツ！オトナ帝国の逆襲』だった。

一人で映画館に観に行って号泣したという。  
いきなりスタート場面で太陽の塔。昭和世代の我々に訴えかけたモノは……。そして、マコなり社長が受け取ったモノは違った。

「お父さんもお母さんも、かつては子どもだったんだ」「わがままを言って親を困らせたり、悪さをして怒られたり、思春期の頃は親に反抗したり、半人前の社会人の時はミスを繰り返して悔しい思いをした。そして一人前の親でもないのに必死に自分を育ててくれた」。

「なんで今までそんなことに気がつかなかったんだろう。映画を観て、両親に心が込み上げてきた」と思えて泣けてきたという。

まさに表面でご紹介した「今すぐ両親に感謝を伝える」お話はここからだった。

今回の教えで、自分もまず両親を思い起こしてみたい。とても働き者の両親で、祖母に可愛がってもらったが、両親には随分わがままを言っていたと思う。

6月20日、10年越しの緑の元サンマーク出版の鈴木七沖さん（現在は独立）のFacebook ライブを拝聴させていただいたが、リンクするお話でもとても深かった。こちらです！

「自分の時間」では自由に想いを馳せることができず、「母の時間」にあえて今向き合いたい。どんな人生だったのか……。母の時間を少しでも味わいたい。

「お父さんもお母さんも、かつては子どもだったんだ」「わがままを言って親を困らせたり、悪さをして怒られたり、思春期の頃は親に反抗したり、半人前の社会人の時はミスを繰り返して悔しい思いをした。そして一人前の親でもないのに必死に自分を育ててくれた」。

続いて自らの家庭の振り返り。自分の子どもたちが小さかった頃、夜中に熱が出て大騒ぎして病院を回ったりしたこと、二人とも生後3ヶ月から保育園へ預けて、2人目の時に長男が「赤ちゃん返り」して、振り向かずに逃げるようになり預けたことなど……。もっとああすれば、こうしていれば、との想いも……。思い起こし、思わず涙……

今回、コロナ禍でのよかったの大きな一つ。観たことのある映画を含め、マコなり社長オススメの映画5本をじっくり味わえたこと（アマゾンプライムで無料）。

「人生で大切なことは何か」深い教えをとでも分かりやすく学ばせていただいた。望みの一つは「幸せに生きる人が増えること」。そういった機会をつくること

が私にとっては何よりも幸せで楽しいこと、と2018年11月に始めたマコなり社長のYouTube。異ジャンルでも『感謝』の重要性を取り上げた内容の多さを実感した。今後ご紹介していきたい。

◎ご紹介動画はこちらより  
マコなり社長 日本講演新聞  
（中村信仁氏の語り）

「お父さんもお母さんも、かつては子どもだったんだ」「わがままを言って親を困らせたり、悪さをして怒られたり、思春期の頃は親に反抗したり、半人前の社会人の時はミスを繰り返して悔しい思いをした。そして一人前の親でもないのに必死に自分を育ててくれた」。

上記ご紹介の「日本講演新聞」の動画は、『営業道のカリスマ』中村信仁さんの語り。ぜひとも拝聴を。

## 編集後記

「店員さんに笑顔でありがとう」という学び。実は先月ご紹介した、『陽転思考』の和田裕美さんの教えで、10年程前に知った。

立場が逆の人に対して、あえて「ありがとう」の言葉。わずか100円でも可能な「感謝のワーク」。出来るようになる、必ず心地よくなる。以後、たくさんの方に伝えてきた学びだ。

地元エリアの小中学校におせっかい寄贈を続けており、今年は漢字ポスター他をお届けした。実は、出身の新潟・魚沼の小中学校にはこの10年来、毎年キャンペーンに併せて、読売新聞と子供向け新聞を半年分寄贈している。2月始め、施設に一人でいる母親の米寿に併せて帰省した折、中学校を訪問。変わられて初めてのS校長先生とたくさん有意義なお話が出来た。

先月中旬、S校長先生より、達筆の御礼状とともに、地元魚沼の限定冷酒が届き、有り難くいただいた。生徒達にお話の機会を結び、笑顔溢れる未来のために。

「お父さんもお母さんも、かつては子どもだったんだ」「わがままを言って親を困らせたり、悪さをして怒られたり、思春期の頃は親に反抗したり、半人前の社会人の時はミスを繰り返して悔しい思いをした。そして一人前の親でもないのに必死に自分を育ててくれた」。